

**ポーラ美術館 2025年 企画展スケジュールのご案内**

ポーラ美術館（神奈川県・箱根町）は、「心をゆさぶる美術館」をビジョンとして掲げて、従来のコレクションに加えて20世紀から現代までの美術の展開を跡づけるために重要な作品の収集、公開に取り組んでいます。

2025年は、近代から現代までの美術における色彩の歴史を読み直す「カラース — 色の秘密にせまる 印象派から現代アートへ」展、ゴッホの存在がさまざまな時代や地域にもたらした影響と、現代における新たな価値を考察する「ゴッホ・インパクト（仮）」展を開催します。

**■カラース — 色の秘密にせまる 印象派から現代アートへ****会期：2024年12月14日(土)～2025年5月18日(日)**

多様化する現代社会では、ファッション、インテリアはもちろん、環境、健康、美容などの分野でも色彩の果たす役割が広がっています。一方、最も身近な存在となったスマートフォンには10億色以上の再現力があるように、いつしか私たちは膨大な色彩の世界に巻き込まれてしまっているとも言えます。

本展覧会は、近代から現代までの美術における「色彩」に注目し、色彩論や色を表現する素材との関係にふれながら、その役割についてあらためて考察するものです。チューブ入りの油絵具を巧みに扱い、さまざまな色彩によって視覚世界を再構築した19世紀の印象派や新印象派から、20世紀のフォーヴィスムの絵画や抽象絵画、そして色彩の影響によって観る者の身体感覚をゆさぶる現代アートにいたる近現代の色彩の美術史を、絵画や彫刻、インスタレーションなどによって読み直します。



上) ロベール・ドローネー 《傘をさす女性、またはパリジェンヌ》1913年 ポーラ美術館

下) ベルナール・フリズ 《Ijo》2020年 ポーラ美術館

©Bernard Frize / ADAGP, Paris, 2024 Photo: Ken Kato Courtesy of the artist and Perrotin

**会場：ポーラ美術館 展示室 1, 2, 3, アトリウム ギャラリー****主催：公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館****おもな出品作家（予定）：**杉本博司、クロード・モネ、ジョルジュ・スーラ、ロベール・ドローネー、アンリ・マティス、ピエール・ボナール、ヘレン・フランケンサラー、モーリス・ルイス、ケネス・ノーランド、ドナルド・ジャッド、ブリジット・ライリー、ゲルハルト・リヒター、ベルナール・フリズ、ヴォルフガング・ティルマンス、グオリャン・タン、杉本博司、桑山忠明、前田信明、坂本夏子、山口歴、流麻二果、門田光雅、山田航平、川人綾、山本太郎、草間彌生ほか**■ゴッホ・インパクト（仮）****会期：2025年5月31日（土） - 11月30日（日） 予定**

ポーラ美術館では開館以来初となるフィンセント・ファン・ゴッホ（1853-1890）をテーマとした展覧会を開催します。

陽光のきらめく南仏のアレルで制作された《ヴィゲラ運河にかかるグレイズ橋》（1888年）や最晩年にオーヴェール＝シュル＝オワーズで制作された《アザミの花》（1890年）など、当館は3点のゴッホ作品を収蔵しています。わずか37年ほどの生涯のなかで、数えきれないほどの絵画を制作した

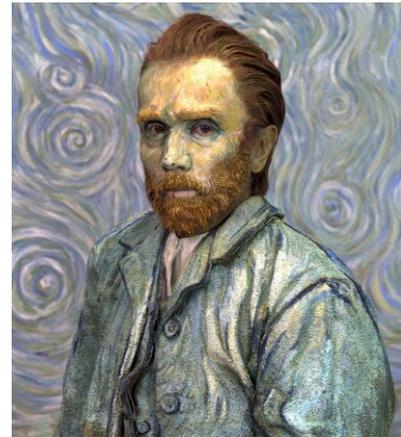
ゴッホの名声を築き上げているのは、うねるような筆触とあざやかな色彩による独自の様式、そして何よりもその劇的な生涯であると言えるでしょう。

本展覧会では、個性と情熱にあふれたゴッホの作品や芸術に人生を捧げたその存在が、さまざまな時代においてどのようなインパクトを与えたのかを検証するとともに、現代という時代のなかで、「ゴッホ」がいかにして新たな価値を持ち得るのかを考察します。

上) フィンセント・ファン・ゴッホ《ヴィゲラ運河にかかるグレース橋》1888年 ポーラ美術館

下) 森村泰昌《自画像の美術史（ゴッホ／青い炎）》2016 / 2018年 ポーラ美術館

copyright of the artist, courtesy of ShugoArts



**会場**：ポーラ美術館 展示室 1, 2, 3

**主催**：公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館

**おもな出品作家（予定）**：フィンセント・ファン・ゴッホ、ポール・シニャック、アンリ・エドモン・クロス、ポール・セザンヌ、ポール・ゴーガン、アンリ・マティス、アンドレ・ドラン、モーリス・ド・ヴラマンク、佐伯祐三、前田寛治、萬鐵五郎、岸田劉生、木村荘八、草間彌生、森村泰昌、福田美蘭、桑久保徹、フィオナ・タンほか

※会期、展示替え休館予定は改めてお知らせいたします。

### ■ポーラ美術館について

2002年に「箱根の自然と美術の共生」をコンセプトに神奈川県箱根町に開館。印象派から20世紀にかけての西洋絵画を中心としたコレクションを核とする展覧会を開催する一方で、現代美術の第一線で活躍する作家たちの作品も収集・展示し、同時代の表現へと展望を拓いている。富士箱根伊豆国立公園という立地を生かした森の遊歩道では四季折々の豊かな自然を楽しめる。

開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

入館料：大人 ¥2,200 / 大学・高校生 ¥1,700 / 中学生以下無料 / 障害者手帳をお持ちのご本人および付添者（1名まで） ¥1,100 ※すべて税込 団体割引あり

所在地：神奈川県足柄下郡箱根町仙石原小塚山 1285

TEL：0460-84-2111

公式ウェブサイト：<https://www.polamuseum.or.jp/>

### <報道関係者お問合わせ先>

ポーラ美術館 広報担当：田中、稲見 TEL:0460-84-2111

ポーラ美術館広報事務局：小沢、伊佐 TEL:03-5572-7351（株式会社ブラチナム内）

E-mail: [polamuseum-pr@vectorinc.co.jp](mailto:polamuseum-pr@vectorinc.co.jp)